

1 自己紹介

河住有希子（日本工業大学）

中国天津市及び日本国内での日本語教育教員を経て、
現在はアカデミックリテラシー、スタディスキルズ等の育成に関わる科目を担当。

藤田恵（立教大学）

立教大学日本語教育センター教員。
現在は正規留学生、短期留学生向け日本語科目と、1~3週間の短期プログラム（対面・オンライン）を担当。

2 私たちの研究の中で用いる言葉について

「しょうがい」

表記について様々な議論があります（しょうがい、障がい、障碍等）。
私たちの研究では、文部科学省（学校等での配慮やインクルーシブ教育に関する指針の提示）および、厚生労働省（社会保障の認定のために「視覚障害」を区分し定義）が公開している各種資料の表記に準じ「障害」としています。（2021年8月現在）

「しかくしょうがいしゃ」

法律等に「視覚障害者」という言葉が含まれる場合にはそのまま用います。
私たちの研究では調査協力者の総称を「視覚に障害がある日本語学習者」としています。
拡大コピー等で文字を読むことができる方と区別するために「点字を使用する日本語学習者」と呼ぶ場合もあります。

「もう（盲）」

研究上「弱視／ロービジョン」と「全盲」を区別する必要がある場合には「全盲」という言葉を用います。
盲学校、盲人協会等、固有名詞に「盲」の文字が含まれる場合はそのまま用います。

現在、視覚に障害がある児童生徒が通う学校（小中高校）が全国に68校あります。

学校名称は ○○盲学校、盲特別支援学校 が44校
○○視覚支援学校、視覚特別支援学校、視覚総合支援学校 が18校
○○支援学校、特別支援学校、総合支援学校ほか が6校

唯一の国立である「筑波大学附属視覚特別支援学校」は2007年に現名称に改称。
学校HPでの名称は「筑波大学附属視覚特別支援学校（附属盲学校）」と、旧名称を残しています。

（2021年8月現在）

「晴眼者」「墨字」

視覚障害者に対する語として、「晴眼者」という言葉があります。
また点字に対して、印刷された文字や筆記具で書かれた文字を「墨字」と呼びます。

3 これまでの研究

2010-2012 基盤研究 C 研究代表者 秋元美晴

日本語能力試験における視覚障害者受験特別措置改善のための基礎的研究
合理的配慮の一環として行われている試験時間延長の妥当性検証、提言
受験環境や使用する機器等の妥当性検証、提言

2013-2015 基盤研究 C 研究代表者 秋元美晴

日本語能力試験における点字冊子試験のユニバーサル化に向けた基礎的研究
点字冊子試験で測られる日本語能力の検証
点字冊子試験受験者の学習環境調査、ニーズ調査等

2016-2019 基盤研究 C 研究代表者 河住有希子

視覚障害教育から切り拓く国際共生社会における日本語インクルーシブ教育の基盤構築
視覚に障害がある日本語学習者の授業を担当する教員のためのハンドブック作成
特別なニーズをもつ日本語学習者に関する情報発信、人的ネットワーク構築

2021-現在 基盤研究 C 研究代表者 河住有希子

グローバル化時代における視覚特別支援教育と日本語教育の有機的連携に向けた基盤構築
日本国内の盲学校等(視覚特別支援学校他)に在籍する外国人児童生徒の実態把握
視覚特別支援教育に関わる教員との協働研究と授業実践に向けた基盤構築

4 今後の研究計画等(公開用資料では割愛)

5 書籍など

モハメド・オマル・アブデイン (著)

「わが盲想」2013年、ポプラ社

「日本語とにらめっこ:見えないぼくの学習奮闘記」2021年、白水社

芳賀 優子、松森 果林(著)

「ゆうことカリンのバリアフリー・コミュニケーション」2003年、小学館

伊藤 亜紗 (著)

「目の見えない人は世界をどう見ているのか」2015年、光文社新書

「目の見えないアスリートの身体論 なぜ視覚なしでプレイできるのか」2016年、潮新書

ヨシタケシンスケ(著)

「みえるとかみえないとか」2018年、アリス館

広瀬浩二郎(著) *公開記録用に追記

「さわる文化への招待—触覚でみる手学問のすすめ」2009年、世界思想社

嶺重 慎(編集), 広瀬 浩二郎(編集), 村田 淳(編集) *公開記録用に追記

「知のスイッチ:「障害」からはじまるリベラルアーツ」2019年、岩波書店

6 事前質問へのお返事

質問①～③

- ・視覚障害単体の障害とはどのようなものか。
- ・視覚障害に伴う副次的な困難はあるか（社会経験が乏しいことによる影響等）。
- ・障害が発現した時期や視力の状況によって認知が異なるのではないか。
- ・どのようにアセスメントをするか、どのようにクラスを編成するか。

お返事

(1) 「視機能の低下」と「見る力の弱さ」について

私たちの研究対象は、「永続的な視機能の低下」が認められる日本語学習者です。
晴眼者が使用する教材教具、視覚に依存した教授方法とは異なるニーズを持つ学習者です。

文部科学省は、合理的配慮の対象となる「視覚障害」を次のように説明しています。

両眼の視力がおおむね0.3未満のもの又は視力以外の視機能障害が高度のもののうち、
拡大鏡等の使用によっても通常の文字、図形等の視覚による認識が不可能又は著しく困難な程度のもの

一方、「永続的な視機能の低下」には該当しないけれど、「見る力が弱い」という特性の方もいらっしゃいます。

現れやすい症状：読字障害、書字障害、視空間認知の障害（片付けられない、地図が読めない等）、

運動が苦手、非言語コミュニケーションが苦手など

ビジョントレーニング（眼球を動かす力、両目の協調機能、動体視力、立体視能力、奥行き認識機能の強化）
などを通して「見る力」を強化する方法があるようです。背景に発達障害がある場合もあるそうです。

(2) 「視覚障害」の副次的な困難について

移動：家族や知人、友人のサポート、移動ボランティアの利用が可能です。

一人で移動をする場合には駅や交通量の多い道路などは危険です。

勉強：点字書籍専門の図書館、点訳・音訳（有償・無償）等の利用が可能です。

全国に盲学校等があります。

大学入学共通テストをはじめ、点字冊子試験に対応する試験も多数あります。

生活：共用品の普及により、日常生活を自立して行っている方は多くいらっしゃいます。

就業：晴眼者に比べると就業の機会が多いとは言えません。

(3) 認知の違い、クラス編成について

視覚障害には「視力障害」「視野障害」「色覚障害」「光覚障害」があります。

複合的である場合もあり、進行の速度も様々です。目で物を見た経験があると言っても、見え方は様々です。

読書（拡大版、点字、オーディオブック等）が好きな人もいれば、好きではない人もいます。
認知的、非認知的な能力が発達している人もいれば、未熟な人もいます。
空間認知が得意な人もいれば、苦手な人もいます。
味覚や聴覚、嗅覚、触覚など、別の感覚の鋭さも人それぞれです。

学校教育を受ける世代の「視覚に障害がある学習者」は、視力の低下が進行中である場合もあります。
目で見るという方法を手放し、新しい認知の方法を構築するまでの不安定さの最中にいる方もいます。
突然の事故や病気などで視力を失い、失意の中にいる方もいます。
将来の視力低下に備えて見えるうちから触知や歩行、日常生活のトレーニングをしている方もいます。

このような状況下で、個々の認知の特性を評価することは語学教員には非常に困難です。
よって、私たちの最初のアセスメントは「日本語能力」のみです。
その後は定期的に、繰り返し「対話」をし、語学力と心身の状態に応じた対応をします。

クラス編成は各教育機関で可能な範囲で良いと思います（クラスでも、個別でも）。
アセスメントではありませんが、次のようなことを聞いておくと、授業計画を立てるときに便利です。

- ・何を使いたいのか（点訳教科書、デジタルテキストファイル、教科書の読み上げ音声等）
- ・使用可能な道具（スマホ、PC、視覚障害者用デジタル機器等）
- ・どのように提出できるか（点字、デジタルデータ、録音音声等）
- ・どのように勉強したいか（ピアサポーター、授業資料等の事前提供への希望等）

質問④

・視覚障害者の学習ストラテジーに特徴的なものはあるか。

お返事

- ・実物、模型、触知図や立体コピーなどを使用します。
- ・「録音」を活用します。
 - 学習のポイントや、宿題、テスト範囲の指示などを自分の声で録音して記録する方がいます。
 - 授業の録音を繰り返し聴く方もいます（1.5倍速、2倍速など）。
 - …先生の声の特徴と話の内容がセットで思い出されることもあるそうです。
- ・様々な読み方で読みます。
 - 点字でも、速読（流し読み）と精読を使い分けることができます。
 - しっかり理解したり確認したりするときには点字を読み、さらっと内容を追うだけのときには画面読み上げソフトを利用するなどの使い分けもあるそうです。

・メモを取るのはやや手間がかかります。

点字は、裏面から押し出すようにして書きます。そのため、読みながら同じ紙にメモを取ることはできません。印をつけるだけであれば、付箋やシール、クリップ、紙を少しだけ破るなどの方法があります。

・辞書はまだあまり充実していません。

ネイティブスピーカーに言葉の意味を聞き、メモを取って覚える方を多数見てきました。

AIによる自動翻訳技術が進み、対訳を調べることは可能になってきました。

専門用語はなかなか調べる方法がありません。

・点字は墨字よりも、読むのに時間がかかります。

点字は音を表す文字です。漢字かな交じりの墨字よりも文字数が多くなります。また1文字ずつ指で触れて読むので、墨字よりも読むのに時間がかかります。試験等では時間を1.3~1.5倍程度延長します。

・言葉をたくさん覚えると、PCで漢字変換ができます。

画面読み上げソフトを使うと、「単漢字詳細読み」で一文字ずつ読み上げられます。

例えば「かいじょう」を変換する場合には、次のような候補の中から選びます。

「ウミ、カイガイノカイ」「ジョウゲノジョウ、ウエ」

「カイシャノカイ、アウ」「バシヨノバ、ジョウ」

「カイハツノカイ、ヒラク」「テジョウノジョウ」

・日本語能力試験は、点字冊子でも受験することができます。

試験によっては、点字冊子受験者の合格証に「点字冊子」であることが明記されることもあるそうです。

日本語能力試験は、点字冊子でも墨字冊子でも同程度の水準を担保する試験です。受験経験者からは「晴眼者と同じ試験を受けて合格した」ということが自信になったというコメントもありました。

質問⑤、⑥

・視覚障害の学生が教室にいる場合に、教員や他の学生はどう振舞うか。

・教員、他の学習者以外のサポーターが必要か。

お返事

・(前提として)日本語教育の教室は多様性に富んでいます。

一人だけ宗教の異なる方がいたら、一人だけジェンダーが異なる方がいたら、一人だけ漢字圏ではない方がいたら… など、様々なケースが考えられます。

自分とは異なる存在を知り、相互理解を深め、共生することは、語学学習の意義の一つであると考えます。

・質問や相談がしやすい環境(信頼関係の構築)を目指します。

その上で、以下は基本的なこととして配慮します。

板書は音読する。

話しかけるときには、まず名前を呼んでから。

指示語(これ、あれ、それ等)は使わず、何を指しているかを説明する。
授業資料等は、可能であれば事前にデータで渡す。
本人に希望があれば、ピアサポーターを紹介する。
学内の相談窓口を伝え、学校としてサポートできることの内容を伝える。

- ・視覚に頼らず「言葉を尽くして説明すること」は、晴眼の学習者にとっても勉強になります。
板書や教科書中の絵図などの、言葉による詳細な説明は、他の学生の勉強になります。
他の学生が、視覚に障害がある学生に説明することも勉強になります。
視覚に障害がある学生がムードメーカーになりクラスの団結力が高まったという事例もあります。
実際に身近に接すると、自然な助け合いが行われるケースが多いように思います。

質問⑧(授業に関する事なので、⑦の前に⑧にお返事します。)

- ・資料作成時の注意事項はあるか。

お返事

- ・最初に「メモ帳」などのテキスト形式のファイルを作成し、後から晴眼者用に Word 等でレイアウトを整える。
視覚に障害がある学習者にテキストデータを渡す場合の留意点
読み方の難しい漢字を仮名する。
同音異義語で誤解が生じる可能性がある場合には注釈を加える。
視覚的な見やすさのためのスペースや改行は不要。
晴眼者用に作成した Word 文書等を渡す場合の留意点
ルビは取り、難読漢字は仮名にする。
絵図を使用する場合は、該当箇所に説明文を加える。
テキストボックスや吹き出しなどを使用している場合は、地の文に戻す。
下線や文字装飾、記号類は点字デジタル機器では読み取れない可能性を考慮する。

質問⑦

- ・インタビュー時に考えておくことはあるか。

お返事

- ・所属機関や投稿先の倫理規定に準じます。
いつでも中断できることを伝え、同意書を得ます。
研究上必要なことは聞き、必要のないことは聞きません。
- ・心配があるときには、事前に確認します。
児童生徒にインタビューをする場合には、事前に先生方に質問項目の確認を依頼します。
視覚障害の当事者であり研究者でもある方に、質問項目の相談をする場合もあります。
インタビュー中に、本人に、質問事項に差支えが無いかを随時確認する場合もあります。

- ・視覚に関する情報は、当事者間ではかなり共有されているようです。
全盲か弱視か(どれくらい見えるのか)、いつから見えないのか、なぜ見えないのか、等は当事者間では「自己紹介でよく話すトピック」だそうです。

質問⑨、⑩

- ・「国際共生社会」の「国際」は何を意図しているのか。
- ・この研究に至った経緯と今後の展望

お返事

- ・「国際共生社会」は国籍や母語、その他の様々な背景による区別、差別がなく、皆が人として尊重され共生する社会をイメージしています。その中での「日本語教育の役割」を考えています。
これまで日本語教育機関で第二言語として日本語を学ぶ学習者を研究対象としてきましたが、現在はそれに加え、「視覚に障害がある、外国につながる子ども」の学びにも着目しています。
- ・(以下、今後の研究についての記述。公開用資料では割愛)

以上